

総評

英語がたいへん難しく、国語と理科も難しかったため、5教科合計の平均点もたいへん低くなりました。

道コンなどの模擬試験は、実際の入試と同様、広い範囲から網羅的に出題される特徴があります。模試でのミスは、以前に学習した内容のうちどれが定着していないかを知る手がかりになります。間違えた問いの一つ一つについて、「なぜ間違えたのか」を考え、解き直しをすることで、知識が整理され、確実なものになります。

入試など実際に問題を解く場面において、知識をどのように活用するのか、という、「活用する力」をつけるには、実は「慣れ」は大きな要素です。入試に向けて単元ごとに基礎的な知識を整理する勉強を日々行いながら、実践的な問題にも少しずつ取り組むことで、使える「解法」や「考え方」を増やしていきましょう。

国語

とても難しい出題となりました。

㊦の漢字の読みは、「遵守」が難しかったようです。㊦の記述問題の得点率がやや低くなりました。どの記述問題も、【話し合い】の流れを正確にとらえなければ答えられない問題でした。会話文の内容を把握しながら、問題を解くことが大切です。㊦は、問二の得点率が低くなりました。「だれが」や「だれと」という部分が抜けている解答が多く見られました。問われていることに丁寧に答える力が必要です。㊦の問四は、本文で述べられている具体例を用いて、筆者の考えを説明する問題でした。本文で示されているキーワードを正確に読み取る力が求められました。㊦は、全体的に得点率が低くなりました。問三では、会話文の内容を把握する必要があったため、得点率が低くなったと考えられます。

数学

やや易しい出題となりました。

㊦は規則性についての出題でしたが、比較的良好に解答できていました。図から規則性を読み取り、立式する問題は、近年の入試でも出題頻度が高まっています。問3の解法は、解説を読んで見直しをしましょう。㊦は2乗に比例する関数と確率分野からの出題でした。問3の「三角形をかくことができない」とは、どのような点の配置を指すのか、実際に図をかいて理解しましょう。

㊦問1は平行四辺形であることを証明する問題でした。三角形の合同に比べると、演習の頻度は高くないかもしれませんが、入試に向けて必ず出来るようにしたい問題です。㊦問3は正答率が低くなりましたが、問2のグラフを利用すると理解しやすい問題です。前問で導いた事柄を利用できないか確認する習慣をつけましょう。

社会

標準的な難易度の出題でした。

地理分野は、㊦問4(1)の地形図の標高差の問題、㊦問5の中国に関する完全解答の問題で、特に得点率が低くなりました。標高に関する問題は、地形図中にヒントとなる標高があるので見逃さないようにしましょう。

歴史分野では、㊦問1の年代並べかえの問題、㊦問4の地図の問題で特に得点率が低くなりました。年代並べかえの問題も地図の問題も入試では必須ですので、歴史的なできごとが起こった場所、できごとの前後の流れを確認しましょう。

公民分野は、㊦問6の基本的な人権に関する問題で得点率が低くなりました。

間違えた問題は必ず解き直しをして、次回以降は同じ間違いをしないようにしましょう。

理科

やや難しい出題でした。

㊦は基本事項に関する出題が中心でしたが、いくつか得点率が低くなるものがありました。間違えたところや解答するのに悩んだものはしっかりと復習しましょう。㊦は、どの問題も中程度の得点率となりました。難問もなく、解答しやすかった人も多かったのではないのでしょうか。㊦の問4は、この単元のポイントに関する問いです。間違えた人はよく確認してください。問6の計算問題は多くの方ができなかったようですが、今からでも演習を重ねることで十分に対応できるようになります。㊦は前半の問題が難しかったようです。問3(1)は、教科書をしっかりと読み、どのような実験を行い、その結果から何がいえるかを理解しておくことが必要でした。㊦は問4が難しかったようです。

英語

とても難しい出題となりました。

全体的に記述問題の得点率が30%を下回りました。特に、単語の綴り、時制、複数形などのミスが目立ちました。曖昧に覚えていた単語や文法はそのままにせず、教科書や参考書などを使って確認しましょう。

㊦のリスニングは、予想より得点率が低くなりました。問1と問2は、英文が一度しか放送されない問題です。「誰が」「何を」などの情報を聞き逃さないように、集中して取り組みましょう。

㊦の英作文は「自然災害」に関する出題でした。(1)は中学2年生の英文内容です。教科書に同じような英文がありますので、見直しをしてください。また、(2)と(3)のように、書く内容が難しい問題は、自分の分かる文法と単語を使って文章をつくるようにしましょう。